

～集まれ防災人！ 迫る自然災害の危機から子供たちの命を守るために！～

1

みやぎ震災伝承連携推進事業補助金事業

未就学児の小さな命を守る ための避難行動を！



東日本大震災で、幼稚園の管理下で津波に巻き込まれその後命を落とした佐藤愛梨ちゃん。高台の幼稚園にいれば救われるはずの命でした。幼稚園側の防災意識の低さが、誤った避難行動を招き取り取り返しのつかない悲劇を起こしてしまいました。

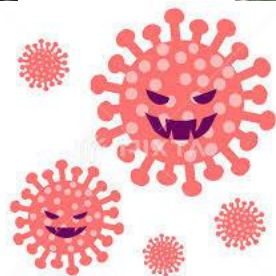
私たち「一般社団法人Bird's-eye」は、遺族と共に二度と同じ悲劇を繰り返さないため、伝承と防災啓発/日常からの地域連携と、避難行動を取る大切さを伝える活動を行っております。



石巻市で語り部を続ける遺族の佐藤美香



頻発する災害に待ったなし！ 世界は、災害が日常化する時代に。



有事の際は幼保施設自ら正しい避難行動をその時、冷静に判断しなければならない。

それには、日頃の訓練以上のことは出来ない。

だからこそ、日頃から「他者の視点・助言」を受け入れ、備えや、避難経路の確認など判断が合っていることを確認する必要がある。

防災士・区長・近所の方々・行政・サポートセンター・企業・団体など巻き込んで、日頃より関係性を作っておけば、地域全体で防災意識が高まり、お互い安心して有事の際への備えとなり、地域住民の犠牲が限りなくゼロに近づける。

きっと園ではきちんとした避難訓練を行っているはず・？
保護者(預ける側)の心配

避難方法など本当に合っているのかな…？
保育士(預かる側)の不安

預ける側、預かる側の認識に違いがある。



近所の防災士さん誰？
どこにいる？

キーワード
他者の視点

相談できる
防災士さん、身
近にいてくれた
ら助かるなあ

安心





費用も掛かる
し、ボランティア
アで相談でき
る防災士さん...

地域の身近で
具体的に誰が...



偶然の出会い

(郵便局長防災士)

24000名の局長さんの内、なんと半数以上の
全国約13000人の局長さんが防災士を取得し
ている...これは期待できる！



防災士として
ご助言出
来れば！



郵便局長防災士さん
なら、地域に詳しいし、
何より信頼できる！子
供たちと一緒に見守っ
て頂けたらとても安心



2021年夏に郵便局長と連携しスタートしたこども防災・避難訓練への取り組み。

①ミーティング 地区との懇談会



② フィールドワーク (入念な下見)

本番当日！避難訓練の実施



お散歩中・屋外での避難行動を取る際の、防災士がアドバイス！

一例

先発隊 ⇒ 本部 ⇒
後方隊
を決めて避難行動



先発隊
先に行動して、危険力所がないか確認し本体を誘導する重要な役割



トラシー
バーは必須

後方隊
一番後方からの視点で安全確認など、全体の動きに応じて本体をサポートする。



本隊
先発隊の指示を確認して行動を起こす。常に正しい情報を集め正しい避難方法を見極め行動する。

屋外への避難行動はこのように、長く列になって
行うため、先発隊・本隊・後方隊の連携が重要です。





9月塩竈市わだつみ保育園。2回目となり、ご近所での連携も進んでいる。自走を始めた手本となる保育園の取り組み。

七ヶ浜町・遠山保育所での避難訓練の様子 大きめの「訓練中横断幕が子供たちをガード」





多賀城市での避難訓練は多様な想定の中、避難訓練の実施を行えた。また避難訓練終了後、保育所では別の視点で避難経路を再確認するなど、より高い防災意識を持つきっかけになった。

17



多賀城市では官民連携での避難訓練を4保育所・園で多様な想定で取り組んだ。

宮城震災の1.2倍浸水

県想定公表 最大津波 気仙沼 22.2メートル

宮城県は10日、太平洋側の巨大地震で最大級の津波が発生した場合の新たな浸水想定を発表した。県全体では東日本大震災の1.2倍となる391平方キロメートルが浸水し、被災地の集団移転先やかさ上げ地の一部も含まれる。津波の高さⅡで県内最大は気仙沼市本吉町道外の22.2メートル。第一波の到達時間は、気仙沼、石巻両市で最も早い21分と予測した。

(3・16・27面に関連記事)

第1波到達 最短21分

沿岸15市町のうち9市町のは石巻市(新たな浸水面積84.9平方キロ)、仙台市(53.8平方キロ)、東松島市(49.2平方キロ)、巨港町(42.0平方キロ)など13市町。平地が比較的少ない松島町でも震災の3.0倍

理町はいずれも約57%が浸水する計算。

庁舎が浸水するのは石巻、塩釜、気仙沼、多賀城、岩沼、東松島の6市と巨港町、松島、女川の3町。

津波の高さは他に、南三

4.7メートルと見積もった。

県は①東日本大震災級の三陸沖②日本海溝(三陸・日高沖)③千島海溝(根室・十勝沖)一を大津波を起す震源に設定。震災とは異なり、満潮時の発生や津波の越流による防潮堤の破壊、地盤沈下といった悪条件を重ねて算出した。

有識者検討会で座長を務

津波の高さ 海岸線に津波が到達した時の最大の高さを基準(標高0メートル)として算出した。津波が防潮堤を越えるなどした時の浸水深、海岸到達後に陸地をはい上がる(そじょう)高とは異なる。

幼稚園 訓練の少なさを懸念

全国の主要都市で、津波や大雨の浸水想定区域に立地する保育施設、幼稚園などが約4割に上ることが読売新聞の調査で明らかになった。災害への備えが極めて重要だが、毎月の避難訓練が義務づけられている保育施設に対し、幼稚園の訓練回数は「年2回以上」と定められている。専門家は「幼稚園の避難訓練が少なすぎる」と不安視している。

(石塚人生、梶彩夏)

の意識も違ったと思う」と佐藤さんは訴える。公立、私立を問わず幼稚園が避難訓練を毎月実施するよう条例制定を求め、全国の自治体にも働きかける予定だという。

児童福祉法に基づく基準で、保育施設には少なくとも

月1回の避難訓練や消火訓練が義務づけられている。一方、幼稚園は消防法などから訓練は「年2回以上」と定められ、回数も施設次第だ。認定こども園も幼稚園と同様だが、自治体が条例で毎月の訓練実施を義務づけたり、施設が独自

津波・大雨浸水

想定区域に4割

本紙調査

成果

- ①多賀城市3 塩竈市1 七ヶ浜町1
計5つの事例を行うことが出来き、多様な想定で訓練を体験できた。
- ②多賀城編の取り組みを冊子・映像化して紹介することが出来た。
- ③複数回幼保施設関係者が経験すると、参加した保育士が中心となり新たな視点で自走出来ることが確認できた(意識の向上に繋がる)
- ④むしろ他県から関心が高く、取り組み方法を勉強・体験したいという声が複数集まっており、防災学習旅行の誘致になり得ることが収穫。
- ⑤郵便局長や地域協働センターが区長・地域住民・企業・と連携し行政が後押しして行う形が、日頃からの関係性作りや人材発掘・育成など、地域づくりへの相乗効果を実感(多くの高齢者が助け手として参加頂いたこと)

課題

- ①地域によって、問題意識と行動力に大きな差があること。
- ②幼稚園や小規模保育園などでも参加しやすい体制づくりが急務！
- ③幼稚園と保育所の避難訓練回数の差は問題。この差は命を左右する。

災害時、こどもの命を守るためには、大人が自らの命を守り、子供たちを安全に誘導しなければなりません。子供は自分の力で避難行動が出来ないのだから。



～語り部・佐藤美香～